緑の相談所だより

-80号-

２００３．２．１発行　　編集：財団法人旭川市公園緑地協会旭川市緑の相談所☎６５－５５５３

いずれも
定員 50名
講習会
無 料

果樹と花木の剪定

日　時　２月９日（日）
午後１時半～３時半

講　師　旭川市緑の相談所
相談員　佐藤吉光

サン・フランシスコの旅と私たちの洋蘭事情

日　時　２月２３日（日）
午後１時半～３時半

講　師　旭川らん友会
会長　笠原幸三さん

花壇の設計と花づくり

日　時　３月９日（日）
午後１時半～３時半

講　師　旭川市緑の相談所
相談員　佐藤文男

家庭菜園の準備

日　時　３月２３日（日）
午後１時半～３時半

講　師　旭川市緑の相談所
相談員　佐野元雄

お申し込み・お問い合わせは旭川市緑の相談所　☎６５－５５５３

答えは裏面に

春を待つ～ 2月・3月の管理

まだ、雪は深く厳しい寒さが続いておりますが、日は少しづつ長くなり、光線も日増しに強くなってきます。室内の弱い光で我慢していた鉢物も元気を回復し、休眠中の植物も目を覚ます時期になってきます。春はすぐ来ます、雪解けを待ちながら春の管理の準備にかかりましょう。花壇の設計、野菜の作付け計画、苗作り等の準備を進めましょう。

室内鉢花等の管理

この季節、晴天日の窓際には注意が必要です。温度が急上昇し、萎れ、葉焼け、蕾を落とす等の原因になります。またその夜は極端に温度が下がる場合が多く植物を弱らせます。遮光、換気、保温の操作で適温を保つように心がけます。

- **ゼラニュウム**、**インパチェンス**、**ベコニア**等の草花類は、花後に切り戻し、植え替え新芽を発生させ再生します。**シクラメン**は高温に注意し、咲がらを手まめに取り、肥料も時々与えますとまだまだ長持ちします。
- 花後の**アザレア**、**花梅**、**シャコバサボテン**、観賞期間の済んだ**ポインセチア**、**ハイビスカス**等花木類は、１０℃以下の涼しい場所に置き水を控える等で生育を抑え、暖かくなってから切り戻し、整枝、植え替え等を行ないます。
- 休眠中の**クンシラン**、鉢植えの**アマリリス**等、徐々に暖かく明るい窓辺に移し、活動開始です。３０日程で開花が楽しめます。
- **観葉植物**は低温乾燥気味に管理し４月まで生育を抑える方が無難ですが、新芽が伸び始めるようでしたら光線のよく当たる場所に移動し水と肥料を与えます。

  ベンジャミン、**ポトス**、**カポック**等はこの時切り戻し、剪定などで形を整えます。葉がベトつき、光るようでしたらカイガラムシが繁殖しています。葉裏の葉脈、若い幹についたカイガラムシを歯ブラシや綿棒等で丹念に取ります。

種まきと苗育て

- 花壇用草花、野菜などの苗作りを試みてはいかがでしょう。育てる楽しみが一層深まります。**サルビア**、**ペチュニア**、**マリーゴールド**等花壇用草花、**トマト**、**ナス**、**ピーマン**等ナス科の野菜は３月中下旬から種まき開始です。苗を育てる期間は概ね５０～６０日です。ピートパンを利用し種をまき、育ち方に応じ１～２回大きさに合ったポットに移植し最も日当たりのよい場所で管理します。
- **ベコニア**（センパ）、**インパチェンス**等、室内に取り込んで越冬させた株から穂先を挿し、苗を作ります。比較的簡単に殖やせます。

庭木、果樹の剪定

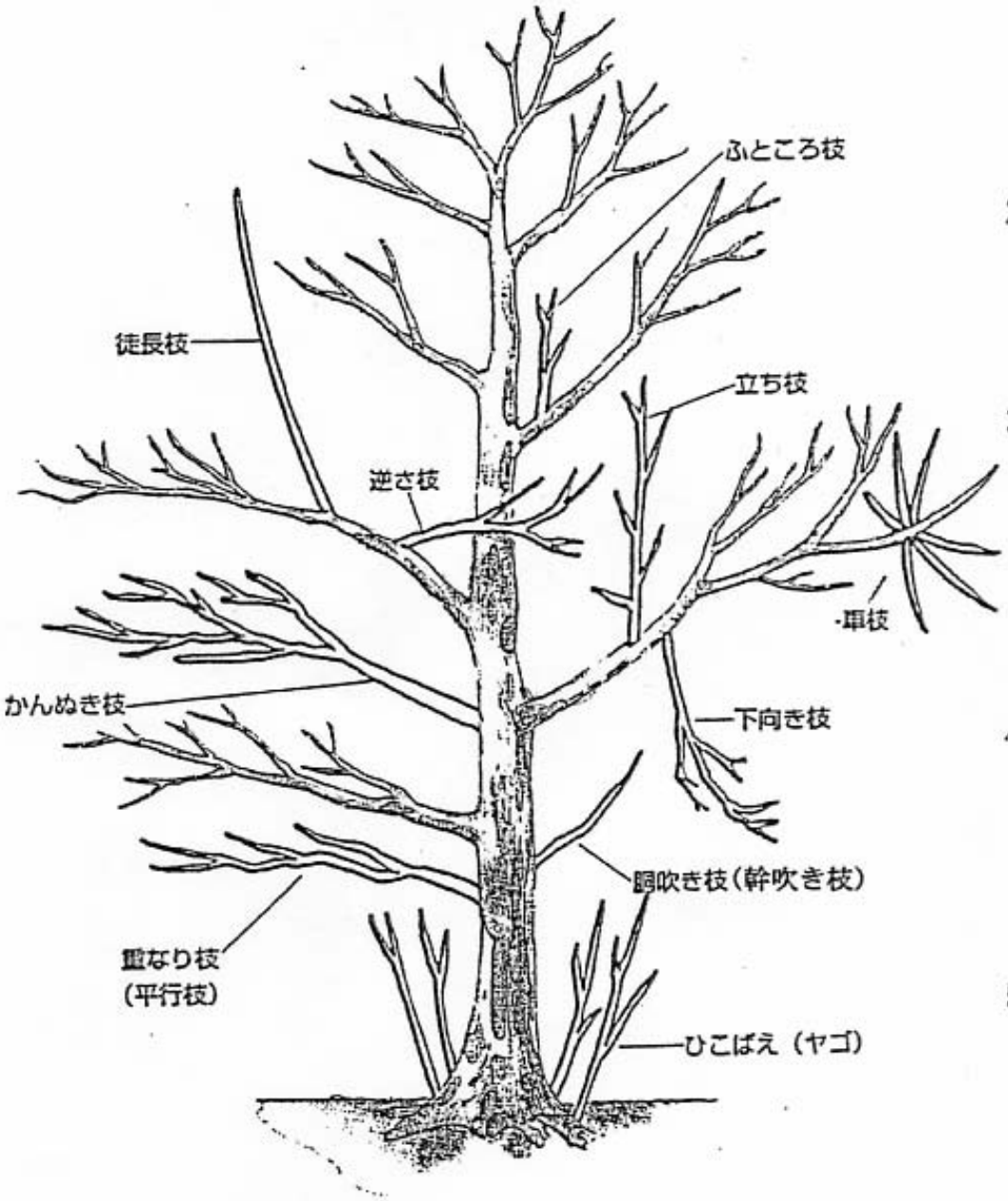
- **雪下ろし**　～　春近くになりますと、雪も固く重みを増し、また下枝に積もった雪は地面の雪とつながり、底雪が解けるに従い枝を下に引き折ってしまいます。囲いをしていても危険は残ります、時期をみて雪下ろしをしておきましょう。
- **剪定**　～　厳寒の季節が過ぎ、３月に入ると凍害の危険も少なくなり、樹形もよく観察できますので、多くの樹木の剪定適期となります。（カエデ類、ブドウは秋のうちに済ます）

  「庭木類」は不要な枝を除き形を整え、また新梢の発生、生長を促すことが目的です

  「果樹」は日陰をつくる枝、細い枝を間引きし、枝葉全体に光線がよく当たるようにし、実を太らせ、来年のための花芽を育てることが目的です。

庭木の管理　（剪定の基本）

剪定とは、不要な枝を知って適切な剪定をすることです。
不要枝とは次のような枝をいいます。



1. **ふところ枝**
   樹冠の内部に出る枝。通風を悪くするので元から切ります。

2. **立ち枝**
   幹に平行して直立する枝は切ります。

3. **車枝**
   同じ位置から数本の枝が、車輪状に出ている枝全体の釣り合いを見て切ります。

4. **下向き枝**
   幹や枝から下向きに出る枝は元から切り落とします。

5. **徒長枝**
   幹や主枝から強く伸びる枝、普通は元から切ります。

6. **逆さ枝**　幹を横切るように内側に向かって伸びる枝は元から切ります。
7. **閂枝（かんぬき枝）**　幹の同じ位置から左右に出る枝。バランスを見て、どちらかを元から切り落とします。
8. **重なり枝（平行枝）**　同じ方向に重なったり、平行する枝などは一方を切ります。
9. **胴吹き枝（幹吹き枝）**　幹の途中から出る小枝は早めに枝元から切り取ります。
10. **ひこばえ（ヤゴ）**　根元から出る枝は早めに枝元から切り取ります。葉の形が違う場合は、台芽なので早めにかき取ります。

「読めるかな？の答え」
①ウコン　②イタドリ　③マタタビ　④ギシギシ　⑤ザクロ　⑥クチナシ　⑦ツツジ　⑧アケビ

私たちの花を愛する心をたどって見ると

・今日のガーデニングブームの起こりはある女性雑誌にイギリスのガーデニングの様子が美しく掲載されたことから触発されたといわれています。しかし、園芸ブームは珍しいことではなく、３０年前の昭和４０年代にも庭木（造園）ブームが起こり、ツツジなどの花木やオンコなどの庭木そして神居古潭石などの庭石を買い求め、庭作りをする人々が多くなりました。そのためレンゲツツジやオンコなどもほしくても手に入らないこともありました。実際に体験された方も多いかと思います。

さて、私たち日本人にはイギリス人を始めとする外国人に劣らない、花を愛する心をもった国民であることを歴史が示していますので紹介してみたいと思います。

それは、奈良時代末期から平安時代初期の万葉時代に作られた万葉集に数々の花が詠われていることから言えると思います。萩、梅、橘、桜、尾花、藤、山吹、馬酔木、つつじ、椿など多くの花が万葉歌の題材になっています。平安時代になると観賞する花も撫子、女郎花、桔梗、朝顔、つぼすみれ、りんどう、萩、夕顔、ほおずき、われもこうなど数も多くなってきています。鎌倉、室町時代は花の種類も前時代を受け継ぎ大きな発展は見られていません。

なんといっても私たち日本人の花を愛する心を育んだのは江戸時代といえます。今年は徳川家康が１６０３年（慶長８年）江戸幕府をつくって以来４００年の節目の年にあたります。江戸時代は鎖国政策ではありましたが長崎港を中心として、中国やオランダから、花木、草花が多数導入され庶民に愛されました。特に、文化文政時代（１１代将軍徳川家斉時代１８０４～１８３０年）を中心に園芸趣味ブームが起こり、江戸では駒込、巣鴨、根津、入谷、京都では北野、大阪では天満と各地に植木屋がありました。なかには朝顔師、菊師など特定の園芸植物を専門に扱う者まで出ました。幕末に来日したイギリスの植物学者ロバート・ホーチュンは著書「江戸と北京」の一節に「交互に樹々や庭、格好よく刈り込んだ生け垣がつづいている。私は世界のどこに行っても、こんな大規模に売り物の植物を栽培しているのを見たことがない。植木屋はそれぞれ3～4エーカー（註、１エーカーは４０４７m² ＝１２２６坪＝約4反）の地域を占め、鉢植えや露地植えのいずれも、数千の植物がよく管理されている。」と記しています。

世界一だったといっても過言でないかもしれませんね。それでは江戸時代に渡来した花を掲げてみます。

・花木では＝オウバイ、エニシダ、カイドウ、キョウチクトウ、キンモクセイ、ザクロ、サルスベリ、サンザシ、サンシュユ、ジンチョウゲ、ソケイ、テッセン、トウツバキ、トロロアオイ、ハクチョウゲ、ヒギリ、ビョウヤナギ、ブッソウゲ、ボケ、マツリカ、マルメロ、モッコウバラ、ロウバイなど

・草花では＝アナナス、アラセイトウ、オジギソウ、オシロイバナ、オランダカイウ、キズイセン、キンセンカ、キンギョソウ、サツマギク、サフラン、サンシキスミレ、シュウカイドウ、ゼニアオイ、センジュギク、センニチソウ、センノウ、ダリア、ツクバネアサガオ、ネジアヤメ、ノーゼンハレン、ハナアオイ、ハナカタバミ、ハボタン、ハラン、ハルシャギク、バイモ、ヒナゲシ、ヒマワリ、ヒャクニチソウ、ヒメバショウ、フウセンカズラ、フクシャ、マツヨイグサ、マツバボタン、マルバアサガオ、ムギワラギク、ムシトリナデシコ、ムラサキオモト、ルコウソウ、ルリヤナギ、リュウゼツラン、レイシなど

以上の花を読まれて皆さんの感想はいかがでしょうか、ほとんどが現在も使われていますね。今日の園芸ブームは江戸時代の再現かもしれませんね。ご承知のとおり江戸時代２６５年は経済成長がほとんどない時代でした。したがって、江戸時代の人々はお金や物を求めるのではなく、春は苗もの、夏はアサガオ、ホオズキ、ノキシノブ、秋はキク・・・といった自然の移り変りに併せて生活を楽しむすべを心得て暮らしてきました。現在、不況といわれ、右肩上りが期待できない時代といわれています。私たちは、今日の合理主義から抜け出し、江戸の人々が花を愛する心から生まれた「粋な心」を取り戻してみてはいかがでしょうか。

（「カラー歳時記花木」松田修著、「ＮＨＫ趣味の園芸１月号」より抜粋し作文しました）